

[グリーン・イノベーション・農林水産業分野]
総合特別区域評価・調査検討会における評価結果

令和6年度

レアメタル等リサイクル資源特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年9月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

4.3

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	環境・リサイクル関連企業の製造品出荷額	101%	5
2	特区に搬入されたリサイクル対象となる家電等金属系使用済製品(廃基板等の副産物を含む。)の搬入量(国内、アジア地域)	65%	3

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 2 = 4$

4.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa: 5・20%、b: 4・10%、c: 3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

3.1

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

-

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.5

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.7

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.0

・廃太陽光パネルは今後大量に出てくることは確実であり、環境省の事業を更に発展させ、廃太陽光リサイクル拠点としての歩みを着実なものとして歩みを進めていただきたい。本特区の発展は日本全体にとっても貢献するところが大きいと考える。使用済リチウムイオンバッテリーのリサイクルの事業化についても諦めることなく継続していただきたい。製品の性能向上によってリサイクルの効率(廃材から希少物資の抽出)は低下する傾向にあるが、それをクリアするための技術開発が今後必要になってくるかもしれない。その場合は本特区内に限定することなく、他地域の企業や研究機関・大学と積極的に提携関係を構築して対処していくことも考えてはどうだろうか。

・環境・リサイクル関連企業の製造品出荷額が増加し、目標を達成できたことは高く評価できる。リサイクル対象となる家電等金属系使用済製品(廃基板等の副産物を含む。)の搬入量は、増加しているものの目標には至っていない。特に、廃太陽光パネルのリサイクルは持続可能な社会にとって重要なので、県独自の補助制度も、特区制度と連携して機能するよう、十分な分析、周知を期待する。

・リサイクル製品出荷の数値目標が上回り、かつ難易度が上がる廃太陽光パネルの制度、太陽電池(PV)のデジタル・プロダクト・パスポート(DPP)の運用効果の検証実証事業など着実に実施していることは評価。その実装性はまだ未知数なのでしっかり行っていただきたい。環境面での地域創生を地域金融機関に問うと、GX、サーキュラーに注目しているところも多い。ぜひ、財政支援と民間資金の好循環ができる巻き込みを期待したい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.0

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(4.3+3.1+4 \times 2) \div 4=3.9$

3.9

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。